



琉球玩具 通信



No. 2

2025.04.25.

琉球玩具に関する情報交換と記録の広場

目次

琉球手まりのこと.....当山 昌直.....1	リーフクラフトを八重山の新しい文化に！②...谷崎 樹生.....6
「動く張り子」の作り方②.....與儀 誠.....2	初めての凧作りに石垣島生まれの「やっぴい凧」をどうぞ.....
私たちの玩具作り遊び①.....上運天賢盛.....4仲間 清隆.....7

琉球手まりのこと

当山 昌直

1973年夏、大学の卒業研究のため奄美大島笠利町のあやまる岬付近でキャンプをしました。その地名の「あやまる」が、なんで「ごめんなさい」というような名前なのか不思議でした。2018年再びあやまる岬を訪問したときはきれいに公園化されていました。公園には、あやまるの由来について次のように説明されていました。奄美の乙女達は、正月になると赤・青・黄の色とりどりの糸で刺繍したきれいな手鞠で手毬歌を唄いながら毬つきをします。この岬一帯のなだらかな地形が「アヤに織られた手鞠」によく似ているところから、いつの頃からか「アヤマル」と呼ばれるようになり、地名になったんだろうと伝えられています。

どうやら、この手まりは、奄美、沖縄、宮古、八重山の琉球弧各地に共通してあったようです。特に奄美では地名に残るほど、色濃く残っています。基本的には蘇鉄(ソテツ)からとれる綿で中の芯をつくりますが、それでつくった手まりを実際に間近で見たのは与論島(2017年)でした。蘇鉄の実と実の間にある綿のようなのをハカマといい、ひとつひとつ、それを何日もかけて集め、その後に芭蕉の糸に色をつけて丸めていくといいます。その後は、メリケン粉に使っている木綿糸も使うようになったとのこと。同様な話を喜界島の志戸桶に住んでおられる南さんからも聞くことができました。南さんは2種類の手まりを準備して下さいました。一つは毬の芯を蘇鉄の綿で作ったもの、もう一つは芯をコケ(ハイゴケと思われる)で作ったものです。南さんの話では、蘇鉄の綿の方がよく跳ね上がります、と説明していました。綿を集めるのに数日もかかりましたが、子供だったので時間はいっぱいあったとのことでした。昔つくった、いろいろな模様の手まりを大切に保管しています。

沖縄島では、国頭村奥の手まりはマーランブクイ(ハイゴケ)で作っていたといいますが、昔は蘇鉄の綿を使ったかもしれません。恩納村などでは蘇鉄の綿でした。久米島では、蘇鉄の実を包んでいるもの(大胞子葉)を使っています。宮古では旧正月前におじいさんが孫のためにつくったというような記録もあります(平良市史)。八重山にも蘇鉄の綿で作ったという記録があります(石垣方言辞典)。調べてみるともっと多くの事例が出てくるかもしれません。

私は、まだ蘇鉄の手まりを作ったことがありません。綿集めだけでも数日かかるといいますので.....。



奄美大島あやまる岬(2018年)



あやまる岬の説明(2018年)



蘇鉄の綿と芭蕉糸でつくられた手まり(2017年与論島)



南さんに教えてもらいました手まり(2017年喜界島)



南さんが作った蘇鉄の綿製の手まり(2017年喜界島)



蘇鉄の綿(2021年浦添市)



蘇鉄の実と大胞子葉(2023年宮古島)

とうやままさなお
那覇市市銘苅在住

「動く張り子」の作り方②

與儀 誠一

前回は、おもちゃの時計を利用して張り子を動かすことを紹介しましたが、今回はいづらか手の込んだ工作をしてみましょう。装置作りは、100円ショップで買える安価な材料で足りるため、容易に作るができます。張り子を作るだけで終わらず、せっかく作った張り子を台座に載せて、いろいろな仕掛けを作って動かすことにチャレンジしてみましょう。

1) 少々重い張り子を動かす

時計の秒針のトルクでは動かすことができない重さのウッチリクブサーの場合、時計の秒針にモーターを取り付けて時刻合わせのダイヤルが低速で回転する装置を作り(①)、下部にマグネットを取り付けた軽い張り子を動かすことができます。

張り子の大きさは、高さおよそ 2 cm、マグネットを含めても重さ 3 g 程がよいようです。それより重いと回転が止まってしまう。



装置(上)と張り子が動く様子(下)

2) さらに重い張り子の場合

さらに重い張り子の場合、②のように 1.5 ボルトで動くモーターと歯車を用いて低速で回転する装置を作り、時計の秒針にマグネットを取り付けてリードスイッチを組みわせれば、1分間に数秒間だけ電流が流れ、電池の節約になります。③のようにそこにビー玉とマグネットを取り付けておけば、重いウッチリクブサーでもランダムに動かすことができます。

左右にマグネットをはめ込んだウッチリクブサーは、回転する装置につけたままマグネットと反発するように磁極を配置すれば、ランダムに動きます。



ウッチリクブサー底の部分を示す



時計の秒針に乗せたウッチリクブサーは、重すぎれば動かせないが、⑤のミルクと⑥のウッチリクブサーは、重心が張り子の下の方にくるようにするために、2つの重いマグネットを付けたヤジロベエ仕立てにしておけば、下部の回転装置に付けたマグネットと反発して、動かすことができる

この装置では、重い張り子でも単3電池で長時間動かすことができます。

3) 台座を振動させて張り子を不規則に動かす

モーターで台座が振動するような装置を作り(①)、上に乗せた張り子を不規則に動かす方法を紹介しましょう。

1.5 ボルトで回るモーターに錘を付けて単3電池で回転させれば、台座が振動で動くようにすることができます。その振動に反応して、台座の上に乗せた張り子が不規則に動き回るとい装置です。

張り子の内側に、歯ブラシの先端部を下向きに取り付け、台座の上にブラシが接するように乗せるだけです。スイッチが入れば台座が振動するため、張り子が不規則に歩き回るとい装置です。台座から張り子が落ちないように囲いを作っておくとよいでしょう。是非作って、張り子を動かしてみましょう。

① チンチンマグワのランダムウォーク

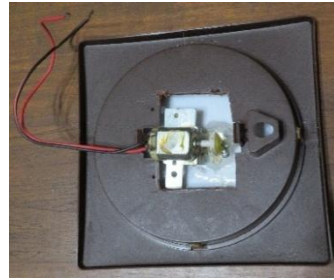
チンチンマグワの馬の張り子は空洞がないので、台座に振動するような仕掛けを作り、張り子の脚に歯ブラシの先を取り付けておきます。



歯ブラシの先端部



4本の脚に歯ブラシの先端部を張って振動板の上に乗せたチンチンマグワ



振動板を振動させる道具

時計の駆動部分を外したものに、モーターに錘を取り付けて駆動版を作る

② ウッチリクブサーのランダムウォーク

台座に振動するような仕掛けを作り、ウッチリクブサーの下に、歯ブラシの先を取り付けた台座に載せると、ウッチリクブサーは自由に動き回ります。



歯ブラシの先端



張り子の中に振動する装置を入れる



振動する台座の上でランダムに動き回るウッチリクブサーの様子

③ トウラーグワのランダムウォーク

台座の振動で上に乗せたトウラーグワの張り子を動かしてみましょう。張り子の下部には歯ブラシの先端が取り付けられており、これを台座の上に乗せれば、トウラーグワはランダムに動きまわります。



台座上のトウラーグワ



台座の振動で、上に乗せたトラの張り子が不規則に動く

よぎ せいいち
那覇市首里崎山町在住

私たちの玩具作り遊び①

私達は仲間が集まり、玩具を作り、それで遊んで楽しんでいます。そのような手作り玩具のいくつかを、紹介したいと思います。また、機会があれば子どもたちが大勢集まって、玩具作りの講座を開くこともありました。それらの一部も、ここで紹介させて頂きたいと思います。自分も作ってみようかとお考えの方は、どうぞ同じような方法で、あるいは違う方法も取り入れながら、玩具作りを楽しんで頂ければと思います。どうぞお気軽にチャレンジしてみてください。

1) 空缶の糸巻き独楽

シーチキンなどの空き缶を使って、糸巻き独楽を作ってみましょう。工作に使う材料は、①シーチキンなどの空き缶、②厚紙、③菜箸、④竹(できればホテイチク=テンブク)、⑤水糸などです。厚紙は5kgの米の包装箱や硬めの菓子箱などで十分で、空缶の蓋に合わせてハサミで円形に切って使います。道具は鋸、五寸釘、金槌、ナイフ、ハサミなどです。

作り方: (シーチキンの空き缶を使う場合)

- ・缶詰を食べた後の空缶の蓋を外し、よく洗って乾燥させる
- ・空缶の底(独楽になったときは上になる)の中心点に穴を開ける(太めの五寸釘と金槌を使う)
- ・独楽の心棒を作る(直径5mmの菜箸を適切な長さに切り、独楽の下に出た先端部を丸めて尖らせる)。心棒を支える竹筒をはめ込む
- ・独楽の底を作る(贈答用の米の箱を使用:缶のサイズに合わせて、ピッタリはまるようにハサミで注意深く円く切る。心棒は空缶の底と蓋の中心をまっすぐに通っていることが必須。そうでなければ独楽は鉛直に立てない)
- ・缶の底(完成すれば上)に心棒が入る竹筒がグラグラせずしっかりと入る程度の穴を開けて、底に当たるまで挿し込んで固定する
- ・糸を準備する(No.6の水糸、およそ50cmほど)

- ・丈の高いサバ缶などの場合は、独楽の持ち手を作る(内径2.5cmほどの竹を鋸で3cmほどの長さに切り、心棒より大きな穴を開け、心棒を釣るような形で取り付ける)
- ・持ち手に心棒を挿し込んで缶の下部から出た部分を竹筒で固定する

遊び方:

- ・独楽の頭部の持ち手の下(または上)の竹筒に、糸を巻き付ける
- ・持ち手を持って糸を力いっぱい引き、心棒ごと独楽を回転させ、台の上または地面に直接置いて回す。巻き付けた糸を強く引けば、空缶の独楽は全体が一体となって回る
- ・回り続ける時間の長短で勝ち負けを決める



回転する独楽



回転する独楽

2) ソテツの麒麟人形

ソテツの種子を使って麒麟の人形を作りましょう。①大小のソテツの種子、②直径3mmの竹串、③爪楊枝またはギンネムの種などを材料にして、麒麟やその他の動物たちの人形を作ってみましょう。工作道具としてドリルやニッパーを使い、色を塗る場合はペイントマーカーを使います。ソテツの種子の皮を排気取ってもよく、少し削って模様を作ることもできますでしょう。

作り方:

- ・麒麟の胴と頭に適した大きさの種子を大小それぞれ1個選ぶ
- ・ソテツの種子をしっかり押さえ、種子が動かないように注意しながら、直径3mmのドリルを使って、種子の下部に前後左右の脚を挿し込むための4個の孔と、脚用の孔の反対側に首用の孔を1個あける
- ・それぞれの孔にボンドを付けた竹串を挿し込み(脚)、首に頭を取り付ける(脚や首の長さは麒麟らしく整える)。脚は麒麟が立つようにならずかにハの字型に開き、首はさまざまな角度になるように挿すと姿勢が変化して面白い
- ・麒麟の頭に、直径3mmの孔を4個開け、爪楊枝を挿して角にし、ギンネムの種子か爪楊枝で耳を付ける
- ・台座に乗せたい場合は、菓子箱などで適宜台座を作るとよい

遊び方:

- ・部屋の適当な場所に飾る
- ・たくさん作って草原に放して遊ぶなど、工夫次第



麒麟の頭部



麒麟

3) 縄文笛

ソテツの種子を使って笛を作ります。とても原始的な笛ですので、私達は「縄文笛」と呼んでいます。材料は、①ソテツの大きな種子を使います。道具はドリルと大きな釘です。

作り方:

- ・ソテツの種子をしっかり押さえ、種子が動かないように注意しながら、直径6.5mmのドリルビットを使って種子の丸まって膨らんだ方の端に孔を開ける。まず、小さな直径2mm程度の小さな孔を開け、小さな孔の位置に6.5mmの孔を開けるとドリルの先が暴れるのを防ぐことができる
- ・孔から中に釘先を当てて金槌で叩いて中身を砕き、釘の頭部で掻き出して空にする
- ・種子に付いたオレンジ色の皮は、そのまま残しても剥ぎ取ってもよく、または一部を剥がして模様にしてもよい
- ・皮を剥ぎ取った種子の表面に絵を絵描いたり、ニス吹きかけて表面を飾ってもよい

遊び方:

- ・穴の下部を下唇にあて、息を吹き込んで鳴らして遊ぶ



縄文笛

4) 仔豚の人形など

作り方も道具も麒麟の場合と同じで、違うところは脚も首もそれ相応に短か目にする事です。脚や首の長さを加減したり、胴の長さや尾の状態をわずかに変えれば、四脚の動物だけでなく陸亀や海亀などを作ることも容易でしょう。特に作り方を示す必要はありませんので、それぞれ好みの動物を想像しながらチャレンジしてみてください。



豚



海亀



裏面観



達磨



冬の人形

5) 竹蜻蛉と羽根蜻蛉

お馴染みの竹蜻蛉は、多くの方が一度は作り、飛ばして遊んだことがあると思います。羽根蜻蛉(はねとんぼ)は聞きなれないかもしれませんが、竹蜻蛉と大差ないものです。いずれも、正月が終わった後に残された門松を撤収する際に、大きな竹をもらい受けて利用するとよいでしょう。羽根蜻蛉を飛ばす(発射する)際に使う発射機(カタパルト)は、別に作っておきましょう。

材料は竹のみで、道具は鉋(ナイフでもよい)、鋸、錐(ドリルでもよい)、金槌などです。

作り方:

- ・門松用の竹を鉋で割って、幅 1.5~2 cm ほどの板状にする
- ・中心を決め、中央部に幅 1.5 cm ほどの間隔で、表裏の両方に鋸で逆向きの切り目を入れる
- ・竹の両端から鉋を当て、両端裏表から翅が捻じれた形になるように一部を切り取る
- ・捻じれの向きは遊び手の利き手によって異なるので注意する
- ・心棒を作る(直径 4 mm ほど)
- ・竹蜻蛉の翅の中央に直径 3.5 mm ほどの穴を開け、心棒を挿し込む(一体型の場合、→右上の写真)他に羽だけが回転軸(=発射機=カタパルト)から離れて飛んで行くような竹蜻蛉(離脱型の場合)も作ることもできる。それをここでは羽根蜻蛉と呼ぶ(→右下の写真)

遊び方:

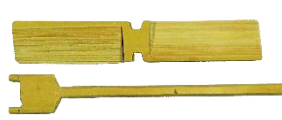
- ・心棒ごと飛んでいく一体型の竹蜻蛉は、両手の平の間に心棒を挟み、両手の平をすり合わせて心棒に回転を与え、利き手を突き出すようにして竹蜻蛉を押し出して飛ばす
 - ・羽根のみが離脱して飛んでいく羽根蜻蛉の場合も同じ要領で飛ばす
- 利き手を引くようにすれば竹とんぼは前方上向きには飛ばない。それはなぜかを考えてみよう



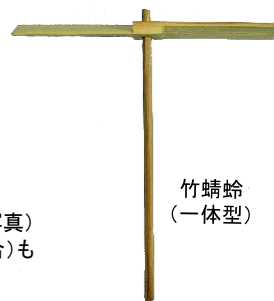
竹板に切り込みを入れる



羽根が捻じれるように切り取る



出来上がり



竹蜻蛉
(一体型)



羽根蜻蛉と発射機(離脱型)

6) フンフン蟬

沖縄のセミでは、最小のイワサキクサゼミは4月には鳴き出しますが、多くの蝉は初夏から秋口にかけて、種ごとにいくらか時期をずらしながら異なる季節に鳴いています。これらのセミを竹筒や紙などで作り、糸を取り付けてブンブン回して鳴かせてみましょう。糸の輪と菜箸先端の松脂の摩擦で音を出す、ブンブン蟬と呼ぶにふさわしい玩具です。使う材料は①竹、②厚紙、③水系、④菜箸、⑤ダンドクの種子、⑥松脂、⑦厚紙などで、道具は鋸、ナイフ、ハサミ、ニッパー、ペイントマーカーなどです。

作り方:

- ・直径 3 cm ほどの竹を片方の端に節を含むように 4 cm ほどの長さに切り、錐で節の中央に孔を開け、抜けないように糸の端に竹串を縛った 30 cm ほどの水系(No.6)を通す
- ・節を含めない場合は厚紙で蓋を作って取り付ければよいが、節がある方が重くて回しやすい
- ・水系の一方の端はセミに取り付け、他方の端には輪を作る
- ・竹筒に模様を描いた蝉の左右の翅を貼り、胴体や頭には模様を描く
- ・目は黒で描いてもよく、ダンドクの種子をニッパーで半分に分けて貼り付けてもよい
- ・菜箸を 20 cm ほどの長さに切り、一方の端に糸をかける窪みをつけ、松脂を塗る

遊び方:

- ・松脂が乾いた後、糸の輪をかけ、回転棒をもってぐるぐる回して出る音を楽しむ
- 松脂と糸の摩擦で音が出るので、ゆっくり回したり早く強く回したりして音の違いを楽しんで遊ぶ。回転させるセミは、ある程度の重さが必要

節を含めて竹を切り、蟬の頭・胸・胴にする



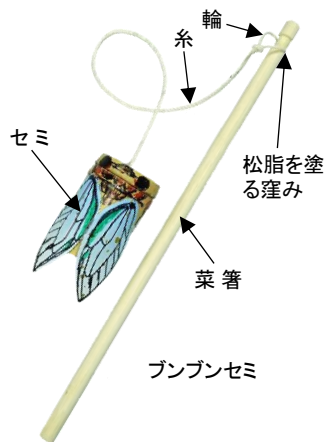
横面観



斜後面観



前面観



ブンブンセミ

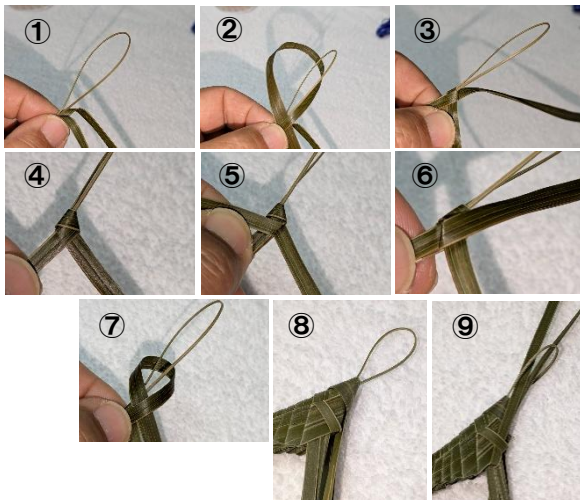
かみうんてん けんせい
那覇市首里鳥堀町在住

・ここに示す玩具は、上運天の手引書を一部改変し、西平が作った。

オオトカゲを編んでみましょう。スリムな体形のトカゲは細身の小葉で編みます。葉先は少なからず傷んでいますから斜めに切り落とって尻尾の先を尖らせませす。詳細は私のブログ「自然日記」 <https://yaeyamanature.ti-da.net/> 2025年3月14日の記事を見てください。

1) 胴体の編み方

- 1 葉先から尻尾の長さ分 6~7 cm を残し、葉の中心の軸の両側にカッターでスリットを入れ、指が爪楊枝で葉の付け根まで左右の帯と真ん中の軸に裂きます。
- 2 軸を曲げて葉裏に挟むように左手で持ち、編み始めます。尻尾は左向きです(①)。
- 3 右側の帯を内側に曲げ、ひねって環になった帯を軸の輪に被せ、後方斜め下に引いて、三角の折り目を作ります(②・③)。
- 4 左側の帯も、同様に内側に曲げ、ひねって環を軸の環に被せて後方斜め下に引くと、先に作った折り目に被さり、土台ができます。ここから胴体を後ろから一段ずつ丁寧に編んでいきます(④)。
- 5 右側の帯を後方斜め上に折り上げて折り目をしっかり付けたら、今度は水平方向前方に折り、斜めの折り目をしっかり付けます(⑤・⑥)。
- 6 この帯を内側に曲げひねって環を作り、軸の環に被せて斜め後方に引いて、しっかり締めます(⑦)。
- 7 左側の帯も同様にできたら、胴体の後ろから一段目が完成です。
- 8 帯の残りが 30 cm ほどになるまで十段ほど編んだら、胴体の完成です。



2) 頭・前足・後ろ足を編む準備

- 9 左右の帯を三等分し、前から1番・2番・3番と呼ぶことにします。

3) 頭の編み方

- 10 1番を上折り上げ、肩口から下に通して付け根の後ろ側に出し、引き締めます。次に1番の先を斜め前方に折り上げますが、まず体側の1番の帯をすくってから軸の環を通し、引き上げます(⑧・⑨)。
- 11 左右の1番を同じように編み、軸の環の上で揃ったら、尻尾の下の軸を引いて首根っここの環をすぼめます。
- 12 左の1番を外側下向きに曲げ、右の1番を巻くように結びます(⑩)。
- 13 右の1番も同じように結ぶと頭頂部が決まり、帯は揃って前方斜め下を向いています。
- 14 左の1番を内側後方に折って、軸の環の上で2枚の帯の間を通し、首の軸の環の上で外側に折り、軸の環を通して下に引き、反対側の体側の1番をすくって後方へ(⑪)。
- 15 左右同じように編めたら、頭が完成です。



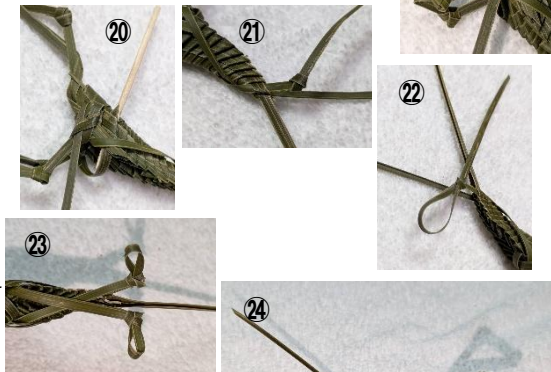
4) 前足・後ろ足を編む準備

- 16 2番を上折り上げ、肩口から下に通し、2番の付け根より後に出します。(この時2番の付け根をやや前方に寄せておくとうよい)(⑫)。
- 17 反対側の2番も同様に編んだら、次は右の3番を背中側に回して左の後方から一段目のポケットに通し、後方斜め下に引きます(ポケットに通しにくいときは、爪楊枝で迎えに行つて道を作ってやる)(⑬)。
- 18 体側で3番に押さえられた1番を、3番の後ろ側で切ります(⑭)。



5) 前足の編み方

- 19 両サイドの2番を、それぞれ外側前方に曲げて結びます。(この結び目の位置で前足の長さが決まる)(⑮)。
- 20 2番を外側に曲げ、結び目の外側のポケットに通して小さな環を作ります。(この環が前足の足先になる)(⑯)。
- 21 2番を内側に曲げ、結び目の内側のポケットに通して上へ(⑰)。
- 22 肩口から出た2番を外側に曲げて脇の下を回し、肩の外側の3枚の帯をすくうように後ろから前へ(⑱)。
- 23 2番を外側に曲げて、脇の外側の帯1枚をすくって脇の下へ、さらに腹側を回って反対側の前から2段目のポケットに下から通します(⑲・⑳)。
- 24 反対側の2番も同じように編み、ポケットの上から出た余分を切除したら前足の完成です。



6) 後ろ足の編み方

- 29 後ろから一段目の下に伸びている3番を、外側前方に曲げて結びます(この結び目の位置で後ろ足の長さが決まる)(㉑)。
- 30 3番を内側に曲げ、結び目の外側のポケットに通して、小さな環を作ります(この環が後ろ足の足先になる)。3番を内側に曲げ、結び目の内側のポケットに通します(㉒)。
- 31 3番は腹側を通して反対側の2番が通っているポケットに通し、余分を切除したら完成です(㉓・㉔)。



★折り曲げたり、結んだり、ひねって被せたり、隙間に通したりと、単純な作業の組み合わせ・繰り返しで編むリーフクラフトですから、一工程ごとにキッチリ・しっかり・ちゃんとできているかを確かめながら丁寧に編んでください。とても集中力がいる作業ですが、丁寧に・キッチリ・しっかり・ちゃんと編めば、どこから見ても美しい作品が仕上がります。頑張ってください。

たにざきしげお
石垣市宇新川在住

凧作りは面倒で大変という印象を抱かされてしまったは、元も子もありません。そこで、私が凧を好きになった幼少時を思い出してみました。つまるところは、見て真似て簡単に自分でつくれる凧は何かを見つけたことでした。石垣島では日めくり暦やテストの答案用紙、ノートなどを利用して竹骨2本をバツテンで組むアヨーに行きつきました。糸目と尾は、天然のタコノキの気根を乾燥させ、さばいて利用しました。手のひらに乗るサイズから新聞紙大のいろいろな紙で、簡単に作れてよく上がったので、のめり込んでいきました。開けても暮れても凧上げに興じたものです。この簡単アヨーは、糸目も尾のつけ方も、その後の本格的な伝統凧作りにつながるもので、長じて各地の凧上げ交流会参加で出会ったさまざまな凧の糸目にも果敢に挑戦し調整できるまでになりました。



青空に連結で上がった大小のやっぴい凧

この成功体験を考えてみた時、子どもたちが凧を好きになる一番の要素は、凧あげ遊び時間がたっぷりあること、自作の凧であればなお夢中になれることに思い至りました。このことに鑑み、作ってすぐ遊べる凧、10数分で簡単に作れる凧を考案してみました。折り紙の要領で5回折れば凧の糸目中心(凧の天地の16分の5の位置)が決まり、そこへ横骨と縦骨を交差配置して固定し、その交点に一本糸を結べば即上がるようにしました。丁寧に作れば尾なしで上がり、複数の同じ凧の骨の交点を等間隔の糸で結べば連凧にもなります。2013年からいろいろな折り方のテストを始め、2018年に今の折り方に落ち着きました。石垣島生まれの「やっぴい凧」の名称は、地元の八重山毎日新聞の子供版「やっぴい」で紹介されたことに因んで名付けたものです。ここに示す図面は、日本語を解しない石垣島在住のドイツ人デザイナーに私の下手な図解を見せて、彼が理解した通りに作図したものです。折りの手順を示すには、写真の方がいいかも知れません。

この図を元に、和紙、新聞紙、包装紙、ポスター、障子紙、買い物ビニール袋、不織布などの身近な素材で素材のサイズをそのまま活用して、縦型、横型を手始めにミニ凧から大凧まで作ってみました。骨材は竹(ミニ凧は竹の皮部分を使用)、木材、カーボン製の釣り竿(細い先端部は横型の横骨に、太い部分は大凧の縦骨に)の中古、農業用ハウスのグラスファイバー棒(ビニールシートで作る大凧に使用)などを使ってみました。やっぴい凧は、凧のサイズに合った細さ、太さ、重さの縦骨、横骨の2本の骨材を基本としますが、横長や縦に長い凧には、風受け面を補強するために、主骨よりも細い骨材を必要に応じて加えることもあります。凧の形は左右対称であれば好きな形にすることができます。

便宜上、凧の形が縦に長いものをペンシル型、横に長いものをバード型と分けています。もちろんすべて1本糸で揚げることができます。微・風軽風の時は横骨に少しそりをつけるとうまく上がるでしょう。強風でも、横骨のそり糸を短くして反りを強くすれば、強風に耐えて上がります。伝統凧を含め、どんな凧も軽く丈夫に作ることは鉄則です。しかし、やっぴい凧に関しては、面の素材の都合によってはおおざっぱな作りになることもありますが、それでも上がります。強い風で反りを大きくしてもなお凧が不安定な時は、尾を取り付けければ安定して上がります。横型で左右のバランスがとれない凧でも、長さの違う糸を左右に結びと安定して揚げるすることができます。

やっぴい凧は、1本糸目を売りにしていますが、凧の下部に主骨より細い横骨をアーチ型に加え、2本糸目にするると高性能な凧に生まれ変わります。私は2本糸目で、田原凧と同じように1本の上げ糸で自在に操縦できる凧に仕上がって楽しんでます。

このやっぴい凧は考案者の私が言うのもなんですが、まだまだ大きな可能性を秘めており、発展途上にあると思います。皆様の改良、改作を歓迎したいと思います。日本中に凧の好きな子どもたちが増えることを祈って……。



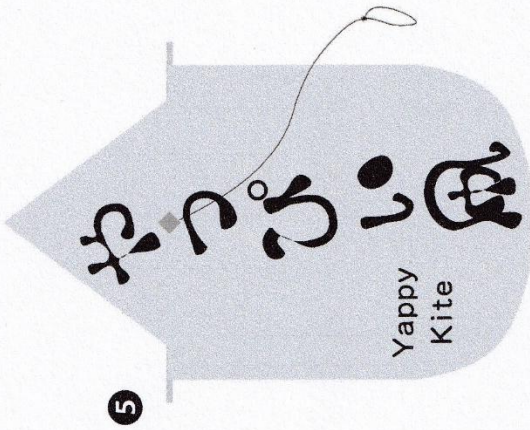
縦長・横長・大小さまざまなやっぴい凧

次ページにやっぴい凧の図面を示してあります

小さなやっぴい凧のいろいろ
(バックはカッティングマット)やっぴい凧の連凧
(石垣市のキャラクター:パイーグル)

入門用凧 "Beginners Kite" 新聞紙、チラシ、包装紙 ヒニールで作る

手のひらサイズから大凧までサイズは自由

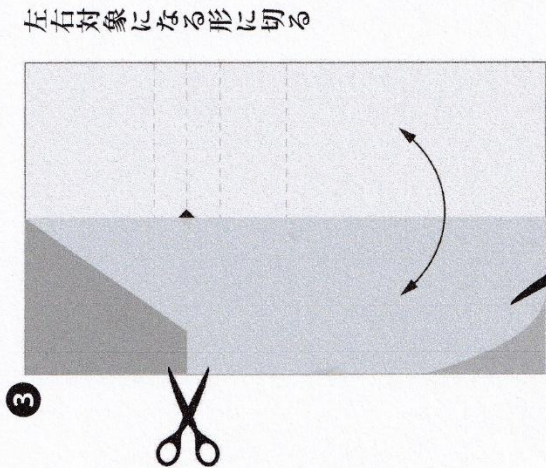
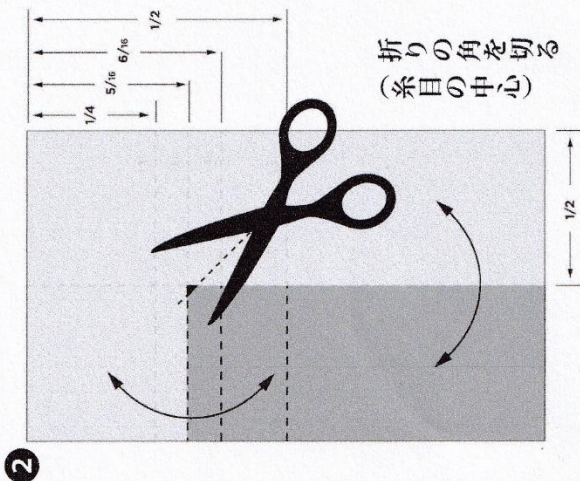
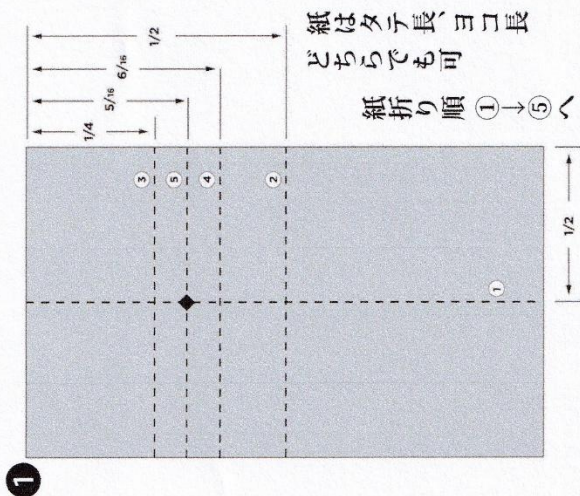


やっぴい凧

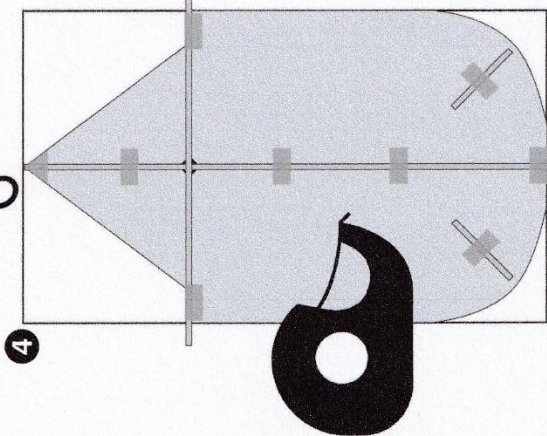
糸目糸は一本です
凧紙のタテ5 16
(タテ、ヨコ骨の交点)
に糸を結ぶ

尾なしでも上がるが、
あれば安定して上がる

考案：仲間清隆(八重山凧愛好会)
Email:kiyotako@outlook.jp Tel.0980-86-8615
〒907-00243 石垣市宇宮良923-150



骨組はタテ・ヨコ2本
凧の下部左右に補助ヒゴ
タテは丸ヒゴ、ヨコは平竹がいい
*凧の大きさに合わせて竹も太く、細くします



なかまきよたか
石垣市宇宮良在住